

第3学年 道徳学習指導案

平成28年6月29日（水） 第5校時

1 主題名 ほんとうの友達 2－（3）

2 資料名 なかよしだから（出典 「明るい心で」東京書籍）

3 主題設定の理由

（1）ねらいとする道徳的価値について

本主題は、中学年内容項目2－（3）は、「友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。」をねらいとしている。このねらいは第1・2学年の「友達と仲よくし、助け合う。」を受けたねらいになっており、第5・6学年の「互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲よく協力し助け合う。」につながっていく。人は、互いに分かり合うことで、心が通じ、確かな友情が生まれる。相手を信頼し、友情を育てていくことは、豊かな人生を送るうえで極めて重要である。中学年では、「仲よくすること」にとどまることなく、助け合うこと、励まし合うこと、教え合うことが大切である。

この時期の児童は交友範囲が広がり、仲間意識の発達がめざましい。気の合う仲間が集まり自分たちの世界を作ろうとする傾向があり、集団での活動も活発である。その反面、友達だからといって、よいことも悪いこともあいまいにして、一緒になって悪いことをしたり、友達の悪い行為を見過ごしたりすることがある。しかし、相手のことを考え、いけないときにはいけないと注意するのが本当の友達である。注意することだけにとどまらず、どうすることが相手のためになるのか、相手のことを考えて、互いを尊重しながら教え合い、助け合っていこうとする態度を養いたいと考え、本主題を設定した。

（2）児童の実態について

本学級の児童は男女ともに仲がよく、休み時間にはみんなで集まって外遊びをしている。ロングの昼休みにはレク係が中心となってクラス全員で楽しく遊んでいる。また、誰かが困っているときには声をかけたり、助けたりする様子も見られる。しかし、誰かが約束やルールを破ってしまったときに、見て見ぬふりをしたり、自分も一緒になって破ってしまうことがある。また、注意をするときに言葉がきつかったり言い方が強かったりして喧嘩になってしまうこともある。ときには、意見のくい違いから、誤解が生まれ、言い争いやけんかになってしまうこともある。

5月に「貝がら」内容項目2－（3）の学習で児童は、友達と分かり合うために、「相手のことを考えることが大切。」「友達の気持ちを考えていきたい。」といった感想を書いていた。よりよい友情関係を築くためには、相手のことを考え、理解していくことが大切だということに、気づき始めている。

本授業を行うにあたって、次のような意識調査を実施した。

1 なかよしのともだちはいますか。

- ・はい 95.8% ・いいえ 4.2%

2 あなたにとって友だちとは、どんな人ですか。

- ・やさしい人 25% ・大切な人 12.5%
- ・楽しい人 12.5% ・やさしくしてくれる人 8.3%
- ・遊んでくれる人 8.3% ・いつもいっしょにいる人 4.2%
- ・お互い助け合う人 4.2% ・手助けしてくれる人 4.2%
- ・気が合いそうな人 4.2% ・元気で明るい人 4.2%
- ・いい人 4.2% ・なかよくできる人 4.2%
- ・自分の考えをみんなの考えにしてくれる人 4.2%
- ・話したり、遊んだり、困っているときに相談してくれる人 4.2%

3 友だちがいてよかったと思うときはどんなときですか。

- ・遊んでいるとき 50% ・助けてくれたとき 12.5%
- ・うれしいとき 8.3% ・ひまなとき 4.2%
- ・いっしょにいるとき 4.2% ・困っているときに声をかけてくれたとき 4.2%
- ・かなしいとき 4.2% ・相談をしてくれるとき 4.2%
- ・いやなことがあったとき 4.2% ・問題がわからないとき 4.2%
- ・遊ぼうって言ってくれたとき 4.2%

4 友だちがいけないことをしたとき、あなたはどうしますか。

- ・注意する 75% ・とめる 16.7%
- ・注意してだめなら先生に言う 4.2%

5 それは、どうしてですか。

- ・言わないとまたやるから 8.3% ・あぶないことをしているから 8.3%
- ・友達がけがをするから 8.3% ・楽しいことができなくなるから 8.3%
- ・いけないことはいけないから 8.3% ・命にかかわるかもしれないから 4.2%
- ・友達関係がなくなってしまうから 4.2% ・友達が傷つくから 4.2%
- ・わかってくれるから 4.2% ・友達だから 4.2%
- ・なかよしだから 4.2% ・友達がいなくなっちゃうから 4.2%
- ・友達だから自分たちで解決しないとだめだから 4.2%
- ・悪いことをしていると信頼できなくなるから 4.2%
- ・けんかがもっと大きくなるから 4.2%

6 自分の考えと友だちの考えがちがうときに、友だちの考えをみとめることができますか。

- ・できる 33.3% ・できないときもある 66.7% ・ない 0%

質問2から、一緒に遊ぶのが友達だという認識をしている児童が多くいる。また、「やさしくしてくれる。」「助けてくれる。」「教えてくれる。」など、自分に対して何かを与えてくれる相手が大切な友達と考える児童も多くなることが分かる。また、質問3から、児童は一緒にいたり遊んだりして、楽しく過ごすときに友達のよさを感じることが多いと分かる。中には、嬉しいときや悲しいときに感情を共有し、共感しあえるのが友達のよさと感じている児童もいる。

質問4では、「注意する。」と答えている児童がほとんどである。一人一人の回答を見ると、「やさしく注意する。」「だめだよと教えてあげる。」など、相手の気持ちを考えていることがわかる。また、「とめる。」と答え、自分でなんとかしようとする姿勢も見られる。

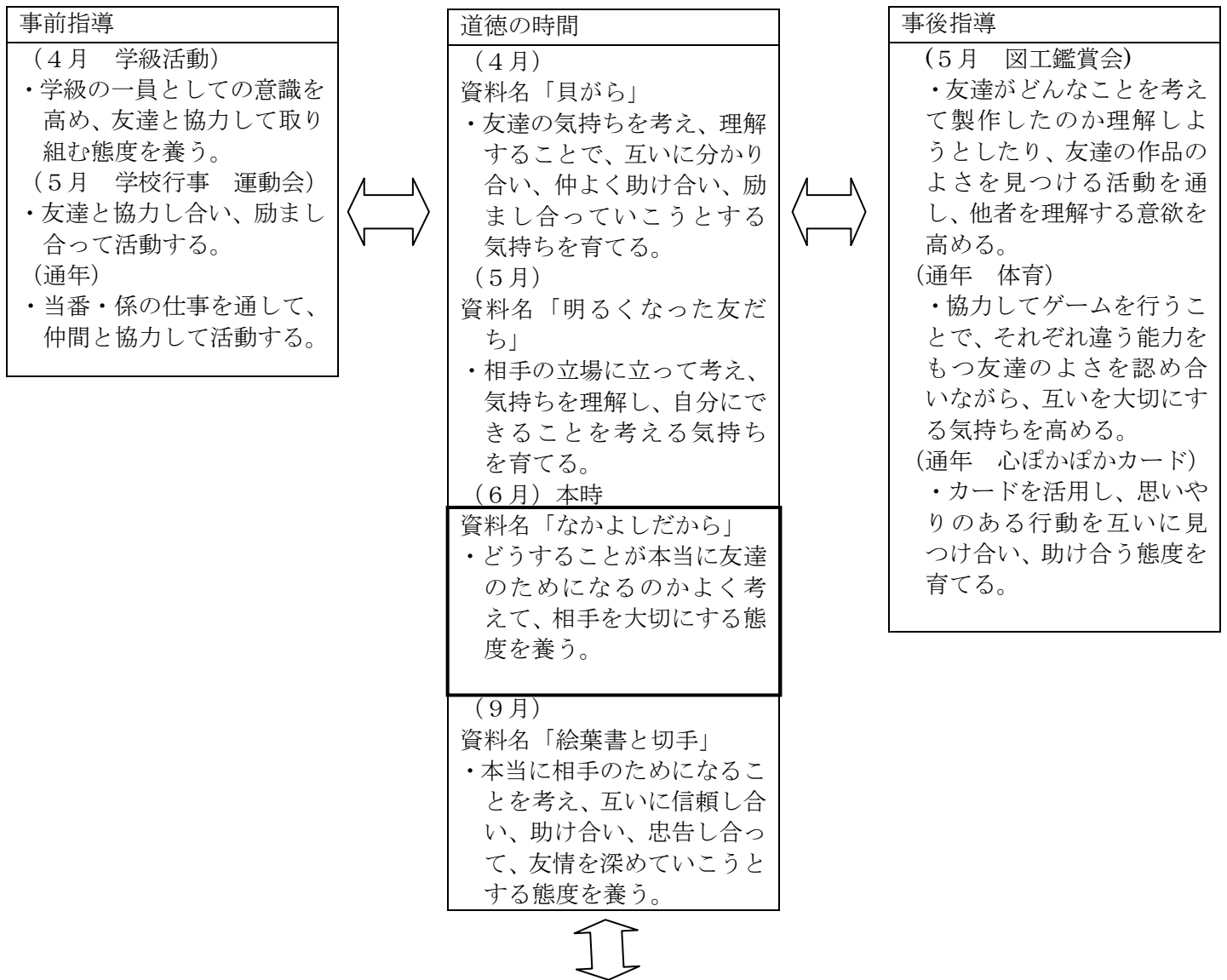
質問5から、友達のために思って行動する児童が多くなることが分かった。しかし、質問6では自分と友達の考えが違うときに、考えを認めることができないときもあると答えた児童が半数を超えていることから、実生活の中では、注意されたときに素直に認められなかったり、相互の思いがすれ違ってしまったりする可能性があると考えられる。また、このような質問をされると相手のことを考えることができるが、「友達とは、どんな人か。」と問われると、遊んでくれる人だという考えがすぐに浮かんでくることから、普段はあまり意識せずに生活していることも考えられる。

本アンケートの結果を踏まえ、本時では、本当の友達とは、一緒にいて楽しかったり困ったときに助けてくれたりするだけではないということに改めて感じさせたい。相手の将来のことを考えて、どうすることが相手にとって一番よいのかを判断するという意識を高め、相手の気持ちを大切にしながら言動や行動を決定していく力を育てたい。

(3) 資料について

「ぼく」は、うっかり忘れてしまった算数の宿題を、仲よしの実君に教えてもらおうと思いつく。前日、実君にカーブの投げ方を教えてあげたから、そのお返しに教えてくれるだろうと考えたのである。ところが、実君に「なかよしだから、なお教えられないよ。」と断られ、本当の友達について考える資料である。なぜ宿題を教えてくれなかったのか、「なかよしだから、なお教えられないよ。」という言葉の真意は何か、なぜ実君はにっこり笑っていたのか、それぞれの場面についてぼくと実くん、それぞれの気持ちを考えていくことを通して、本当の友達とは、相手の気持ちや考えを理解し、認め合い、尊重し合いながら心を通わせるものだということに気づかせ、ねらいに迫りたい。

4 他の教育活動との関連



家庭との連携

- ・学級通信で、道徳のねらいや授業内容、児童の感想などを掲載し、家庭でも友達との関わり方について話題にしよう。
- ・学級通信で、みんなが力を合わせて活動したことや助け合っている姿などを紹介し、継続して友情について考えてもらえるようにする。

5 本時の学習指導

(1) ねらい

友達のことをよく考えて、友達を大切にしようとする態度を養う。

(2) 展開

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	○指導上の留意点 ★評価の観点(評価方法)	時間 資料
導 入	1 これまでの経験を振り返る。 ○友だちに助けられたことはありますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強が分からないときに教えてもらった。 ・転んだときに保健室に連れて行ってもらった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の経験を思い出させるようにする。 ○ぽかぽかカードを紹介し、振り返ることができるようにする。 	5分

と ら え る	<p>2 資料の概要・登場人物について知る。</p> <p>3 主人公「ぼく」と「実」の気持ちを考えながら資料の判読を聞く。</p>	<p>登場人物 主人公：ぼく 友だち：実</p> <p>条件・状況 ぼくは、算数の宿題を忘れてしまった。昨日、ボール投げをしていて、仲よしの実くんにカーブの投げ方を教えてあげたから、そのお返しに答えを教えてくださいに決まっていると思った。けれど、実くんは「なかよしだから」と、答えを教えてくださいなかった。</p> <p>・主人公「ぼく」と「実」の気持ちを考えながら聞く。</p>	<p>○説明を加えて、一人一人の児童が、登場人物の条件・状況をとらえられるような資料提示の工夫を行う。</p> <p>○ぼくの気持ちに十分共感させるようにする。</p> <p>○キーワードとなる言葉を丁寧に読む。</p> <p>○声の大きさ、間の取り方を工夫し、臨場感ある判読を心がける。</p> <p>○宿題を教えるのが友達なのか、教えないのが友達なのか、教えないのはどんな考えからなのかを児童が十分に考えることができる展開にしていく。</p>	5分 短冊
深 め る	<p>4 主人公「ぼく」と「実」の気持ちを話し合う。</p> <p>○答えを教えてもらえなかったぼくは、どんなことを考えたいだろう。</p>	<p>ぼく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくたち、友達じゃないの。 ・どうして教えてくれないの。 ・助け合うのが友達じゃないの。 ・ひどいよ。 ・ちょっと見せてくれたっていいじゃないか。 ・昨日、カーブを教えてあげたのに。 ・もう友達じゃない。 	<p>○算数の宿題を忘れていたことに気づき、焦るぼくの気持ちを十分押さえる。</p> <p>○昨日、ぼくは実くんにカーブの投げ方を教えてあげたこと、実くんは算数が得意で、ぼくととても仲がいいということを押さえる。</p> <p>○なかよしだから、絶対に教えてくれるはずと思うぼくの気持ちに共感させる。</p> <p>○役割演技をして、ぼくの気持ちに十分共感させるとともに、2人が考える友達を理解できるようにする。</p> <p>○なかよしなのに、宿題を教えてくれない実くんに腹を立て、納得できずにいるぼくの気持ちに十分に共感させる。</p> <p>○見せてくれると信じていたぼくが、裏切られたよ</p>	20分

		<p>○実くんは、どうして教えてくれなかったのだろう。</p> <p>○答え合わせをして全部正解したとき、ぼくはどんなことを思っただろう。</p>	<p>実くん</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくが教えてしまったら、彼のためにならない。 ・カーブの投げ方は遊びだし、やり方だけど、宿題は自分でやらなくちゃいけないものだ。 ・たった3問じゃないか。すぐに終わるよ。 <p>ぼく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分でできてよかった。 ・ぼくのために教えなかったのかな。 <p>実くん</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の力でできたね。 ・きみならできるって信じていたよ。 ・やっぱり教えなくてよかった。 	<p>うな腹立たしいような気持ちになったことに共感させる。</p> <p>○実くんの表情と言葉を掲示する。</p> <p>○カーブの投げ方と宿題は、どう違うのか考えさせるようにする。</p> <p>○実くんがどうして教えてくれなかったのか、ぼくが気づきはじめていることに気付かせる。</p> <p>★ぼくの気持ちの変化に気付いているか。(発言・観察)</p> <p>○実くんがどうして「なかよしだから、なお教えられないよ。」と言ったのか振り返る。</p>	
見つめる	<p>5 授業を振り返り、本当の友達について考える。</p> <p>学習課題 本当の友だちって…?</p> <p>○本当の友達って、どんな人だろう。</p> <p>6 本当の友達はどんな人か、グループで話し合い、自分の考えを深める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本当の友達は、いけないことはいけないと言える。 ・本当の友達は、相手の気持ちを考えることができる。 ・本当の友達は、相手のことが分かる。 ・本当の友達は、分かり合える。 ・本当の友達は、相手を大切にする。 	<p>○ワークシートに記入させることで、本時の学習内容を振り返り、実践への意欲をもたせるようにする。</p> <p>○友達と考えを交流させ、自分の考えを深められるようにする。</p> <p>★本当の友達や友情について自分なりに考えているか。(ワークシート)</p>	12分 ワークシート	
終末	<p>6 「ともだちはいいもんだ」を歌う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・こんな友達でいたいな。 ・友達となかよくしたいな。 	<p>○ねらいに関わる歌を歌い、価値を印象づける。</p>	3分	

6 評価の観点

○児童側の評価

- ・ぼくの気持ちの変化を考えながら、自分の考えを持つことができたか。（発言・観察）
- ・本当の友達について考え、相手のことを考え、仲良くしていこうとする気持ちを高めることができたか。
(ワークシートの記述)

○教師側の評価

- ・児童がぼくと実くんの気持ちを理解し、共感できるような授業の展開ができたか。（発言・観察）
- ・ぼくと実くんの考えを整理し、児童が理解しやすく、自分の考えが持てる板書になっていたか。
(ワークシートの記述)

本当の友だちって・・・？

実くん

・算数がとく
い。
・昨日、カーブ
の投げ方を教
えてもらった。

実くん



だめだよ。まだ時間があるじゃないか。もんだいが三つしかない
だから、自分でやれよ。自分でやれよ。

- ・自分でできるだろう。
- ・三問しかないんだよ。
- ・まだ時間があるよ。
- ・カーブは遊びだしやり方だけど、宿題は自分のための勉強だよ。
- ・友達だから、教えられないよ。

「なかよしだから、なお教えられないよ。」

につこりわらいかける。

実くん

- ・やっぱり自分の力でできたね。
- ・答えを教えなくてよかった。
- ・やっぱり、断ってよかった。

相手のた
めに

だめなこ
とはだめ
と言える

ぼく

全部できて手を挙げる。

- ・全部できてよかった。
- ・ぼくのためだったのかな。

なかよしだから…

相手のこ
とがわか
る。

相手を大
切に思う。

ぼく

ぼく、宿題わすれてきたんだ。答えを教えてください。

- ・宿題を忘れた。
- ・昨日、カーブの投げ方を教えてあげた。

ぼく



- ・昨日カーブの投げ方教えてあげたじゃないか。
- ・友達なんだから助けてくれよ。
- ・どうして助けてくれないんだよ。
- ・ひどいよ。
- ・ぼくを見捨てるの。

「教えてよ。きみは、ぼくとなかよしだよ。」

なかよしだから

8 資料分析表

ねらい : 友達のことをよく考えて、友達を大切にしようとする態度を養う。

授業の意図: ぼくと実くんの気持ちを対比させながら考えていくことで、本当の友達とは何かを考えさせ、相手の気持ちや考えを大切にしながら、教え合い、助け合っていこうとする態度を養う。

(見つめる)

発問: 本当の友だちって、どんな人だろう。

意図: 友達のことをよく考えて、友達を大切にすることについて振り返り、自分自身の考えを持ち、今後の実践につなげる。

価値理解

自己理解

実くんが、どうして答えを教えしてくれなかったのか気付き始めたぼくの気持ちを捉えさせる。

発問: 答え合わせをして全部正解し、ぼくが手を挙げているとき、2人はどんなことを考えているだろう。
意図: 笑いかける実くんを不思議に思うぼくの気持ちに共感させると同時に、ぼくが自分で答えを出せた様子を見て喜ぶ実くんの気持ちに共感させる。

人間理解

他者理解

裏切られたようなぼくの気持ちと、友達だからこそ教えたくない実の考えを捉えさせる。

中心発問: 宿題の答えを教えてくださいとお願いするぼくと、教えられないと返事をする実くんはそれぞれどんなことを考えたでしょう。

意図: 2人はそれぞれ考える本当の友達が異なることに気付かせ、気持ちに共感させる。

価値理解

他者理解

(終末)

発問: 「ともだちはいいもんだ」を歌いましょう。

意図: 歌を歌いながら、本当の友情関係を築いていこうとする意欲を高める。

価値理解